

THE
NAWay[®]
MAGAZINE

「世界中で読まれているNAの定期刊行物」
THE INTERNATIONAL JOURNAL OF NARCOTICS ANONYMOUS



2014年1月発行 第31号 / 1号



• [電子版ではポスターがみられます](#) • [新企画！ ベーシック・キャプション・コンテスト](#) • [『伝統』に関する書籍のプロジェクト](#) • [「NAアフリカの歴史」続編](#)

「この命は自分より偉大な愛なる力にゆだねてあるのだとわかっていれば、わたしたちは手放すことができる・・・それによって、あのようなやる気がでてくる・・・そうして人生を存分に生きるのだ」。これは『リビングクリーン』に書かれていることだが、どうやら最近の私はいつもこのことが頭にあるらしく、今月号の記事を読みながら手放すということの意味を考えさせられることが多かった。手放すこと、新しい考えに心を開いていること、そして自分とこの世界を信じてとにかくやってみること。そういえば、23年のクリーンタイムを祝ったばかりのある仲間は今さらにして自分の人間らしさに目がいくと言っていた。あたりまえのように生きて、感じて、経験する。そういう人生が楽しくてならないというのだ。これこそ、回復によってもたらされる贈り物にほかならない。というわけで、みなさんもそろそろ心を開いてインターネット版のNA Wayマガジンという贈り物を受け取ってもいいのではないだろうか（www.naway.org または www.na.org/subscribe で購読手続きをしよう）。なにしろ、ひとくちにフェローシップディベロップメントといっても各地のNAによってさまざまな側面があるため、とてもじゃないが誌面の限られた紙版では掲載しきれない。インターネット版なら、アフリカ大陸でのNAの歴史と発展に関する記事を丸ごと読むことができるし、それ以外にもカバーポスターをはじめとして紙版にはない記事が満載だ。さあ、クリックしてお楽しみください！

ド・J (エディター)

世界中で読まれているNAの 定期刊行物

NA Way マガジン は、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ベルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。”

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジン では、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしております。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんなこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。NA Way マガジン は、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、HYPERLINK "mailto:naway@na.org" naway@na.orgにeメールをいただきたい。NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジン は、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

今月号の記事

特集記事	3	フェローシップディベロップメント	14
<ul style="list-style-type: none"> 3つのステップによって変わるもの 		<ul style="list-style-type: none"> 共同作業 ミネソタに吹く「新しい風」 エリア、リージョン、ワールドサービスによる共同作業 	
ベーシック・キャプション・コンテスト	4		
わかちあい	5		
<ul style="list-style-type: none"> アブダビのミーティング サービスによって強化される 助けを求める ローマにて 夢にも思わないこと 			
『伝統』に関する書籍のプロジェクト	9	第1回NA東アフリカコンベンション	16
PR (広報) 活動	13	<ul style="list-style-type: none"> パート2「フットワーク (機動力)」 	
		仲間の絵はがき	17
		Calendar	18
		NAWS Product Update	19
		Coming Soon	20

Electronic subscribers can click here
for additional content.

表紙の写真： ケン・B (アメリカ合衆国/フロリダ)

NA Way マガジン では、読者のみなさんからののお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろんなこと、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

3つのステップによって 変わるもの

僕は、ステップについて読み、それについて書き、書いたものを検討するといった作業を始めることで、スポンサーと一緒にステップに取り組んでいくようになる前から、「ステップって何だろう？ どうやればいいわけ？ ミーティングで耳にする降伏って、どういうことなんだ？」と疑問に思っていた。提案に心を開いて、

回復の道に踏みだしてからも、疑問は続いた。ステップ1って、どういうものなのか。それを実行したって、どうしてわかるのだろう。正気とは、どういう意味なのか。自分の意志と命を神の配慮にゆだねたと、どうしてわかるのか。疑っていたわけじゃない。回復したいがゆえに悩んだのだ。それまで僕の一生はいろんな薬物や虚栄やセックスによって成り立っていたから、これからは二度と使わないで生活の状態を改善できるように何か違うことをしたかった。自分がどれほどこのプログラムを求め、必要としていたのかはわからなかったけど、どのみちあんな生き方をしていたくても続かわけがなかった。だから、これまでとは違うことをしなくてはという気持ちがあった。それまでずっとアディクションの解決を求めてグルグルしては、どこにもたどりつけないでいたが、そのような苦しみや不安があったからこそ、僕はステップに取り組んでいこうという気持ちになれたのだ。そしてスポンサーができたことで、回復の旅をともに歩みだした。まずはステップ1によって、人生をこのまま終わらせたくないという願望が生まれた。自分の身にあんなに多くのことが起こった理由がやっとわかったからだ。僕は、自分の回復にとって重要なことを学んだ。アディクションという病気のことや、自分の無力さ、否認、先延ばし、無条件降伏などだ。どれもみな、自分がこのステップに取り組むうえで欠かせないことだった。そしてステップ2では、信じるようになっていく過程で新たな気づきもたらされた。考え方を変えることがどれほど重要であるかということがわかり、このプログラムによるスピリチュアルな解決というものを理解するようになった。ステップ3になると、まさに期待で胸が高鳴った。それは、自分の命と意志を神の配慮にゆだねるという決心をするという手順を学んだときにかえられた。心から開放感を味わうと同時に、これからも前進していくことを誓ったという思いがあった。ここまでくると、これまでの苦労はすべて、回復の過程やステップがどういうものであるかを僕が理解できるようになるためになくてはならないものだったのだと納得できた。だが実際には、ステップ3について書き終えずと前、それもスポンサーを選んで『NAのステップワーキングガイド』に取り組むと前から、僕はこのような回復の過程の一部を生きるようになっていたのだ。なぜなら、自分が病気で薬物を使用する

という深刻な問題を抱えていることと人生がメチャクチャになっていることを認めた瞬間から、僕はプログラムの基礎を築きつつあったからだ。僕は自分に真実を告げようとしていた。あのとき、ようやく正直さが芽生え、僕の回復のためになる大きな飛躍を上げたのだ。歩みを進めていくにつれて、スポンサーをもってステップに取り組む必要があることがとてもはっきりしてきた。僕はもう、家族や友人や仕事仲間に自分のアディクションについて知られることを恥じてはいなかった。<No.4> NAの書籍を持ち歩き、NAの帽子やTシャツを身につけていた。NAってなんのことかと、みんなから聞かれてもぜんぜん平気だった。クスリに溺れていた頃に関りのあった人間や場所やものごとはすべて過去のものにしろということだったが、そんなこと自分にはどうでもよかった。だから、受け入れることができたのだ。このようなことをしているうちに、僕はすでに自分なりに理解したNAのステップ1に取り組むようになっていた。あのとき、自分でも知らず知らずのうちに、NAの仲間たちや家族が話題にしていることを理解したり望んだりするだけでなく、みんなが自分に伝えようとしていることや、自分にとってかなり破壊的なものになっている欠点を拒絶しないでいられるほど、僕の心は開かれていたのだ。僕は祈った。NAの文献を読んでいくと、希望が見えてきて、心が開かれ、信じる気持ちになった。それがステップ2に書かれているスピリチュアルな原理だった。これを生き



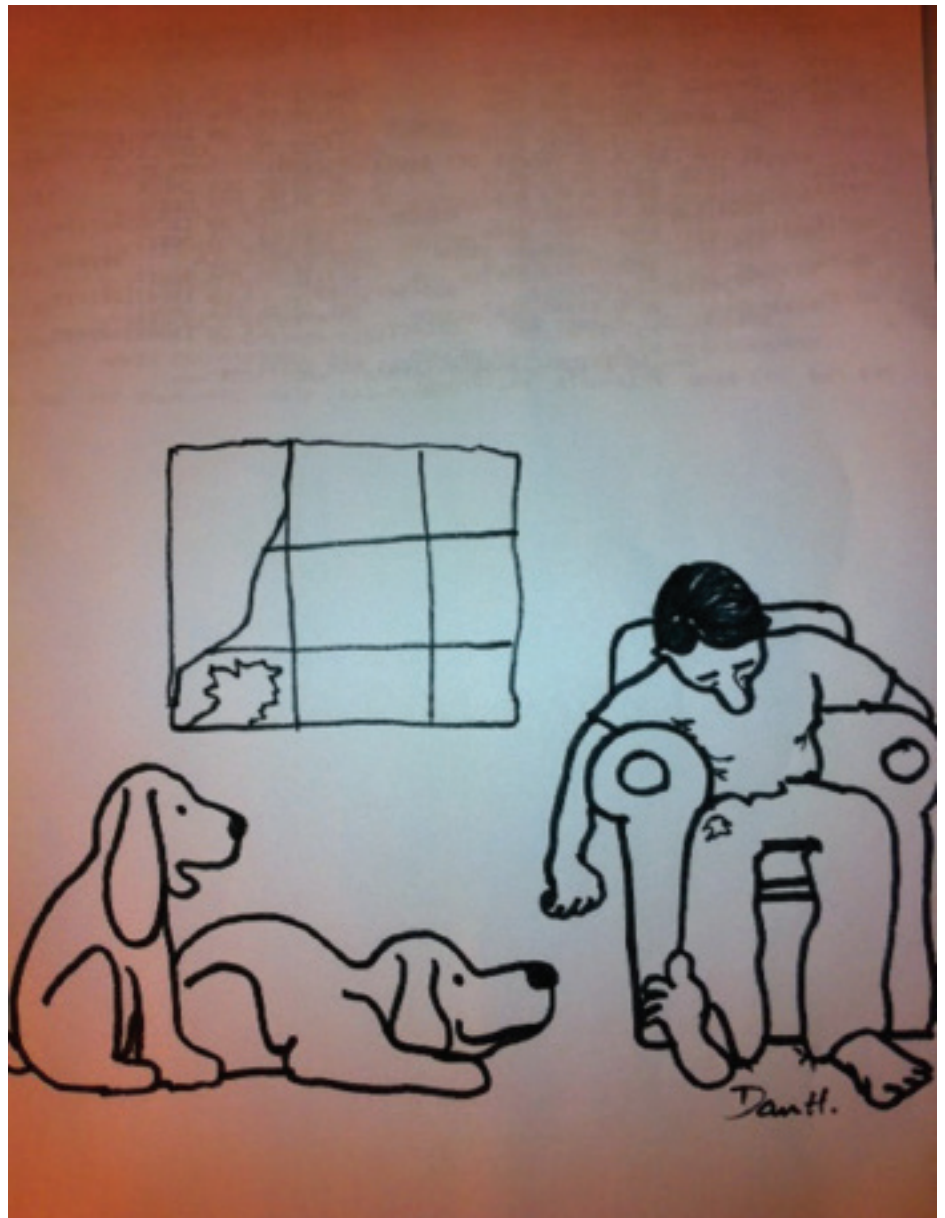
Table and chairs, Brett L, Illinois, USA

る指針として解決策を探るようになった。何より重要なのは、成り行きにまかせられたことだ。それによって僕は90日間毎日ミーティングに出席したあと、時間を惜しまずミーティングに出席しようという気持ちになった。スポンサーに電話をして一緒に取り組もうとし、ミーティング会場の椅子やカップの片付けも進んでやった。恐怖や否定的な状況に直面しても、提案を受けて回復を最優先しようとした。これまでと違うやり方をしようとするだけで、やる気を持つことの重要性に気づいたし、自分がすでにやる気を持って生きていることがわかった。しばらくグリーンでいたことで、これからも回復の道を歩んで自分の命を神にゆだねていけばステップ3は現実のものになっていくと信じられたのだ。今にしてわかることだが、僕はステップワークに生かそうとするまえから、ステップの1, 2, 3によって示される原理が身についていたんじゃないかな。だから、ステップに取り組むにつれて最大限に効果が現れたのだろう。今の僕は、このような原理に対して積極的な態度でいる。真実を語って受け入れているかぎり、心を開いて信じているかぎり、やる気をもって行動しているかぎり、そして薬物を使うのをやめるように導いてくれたものごとを信頼して忘れないでいるかぎり、僕はかつてよりましな行動ができるようになる。そうなればなるほど、問題もなくなり、人生が心おだやかなものになっていく。自分の問題を解決するために助けを求め、これからも自分が回復していくために努力して、信じる気持ちを失わずに責任をまっとうしていれば、ステップの1, 2, 3で身につけた価値観によって僕の人生は開かれ、変わっていくのだ。

アノニマス（ドミニカ共和国／サンチャゴ）

ベーシック・キャプション（ツボを押さえたひとこと）・コンテスト

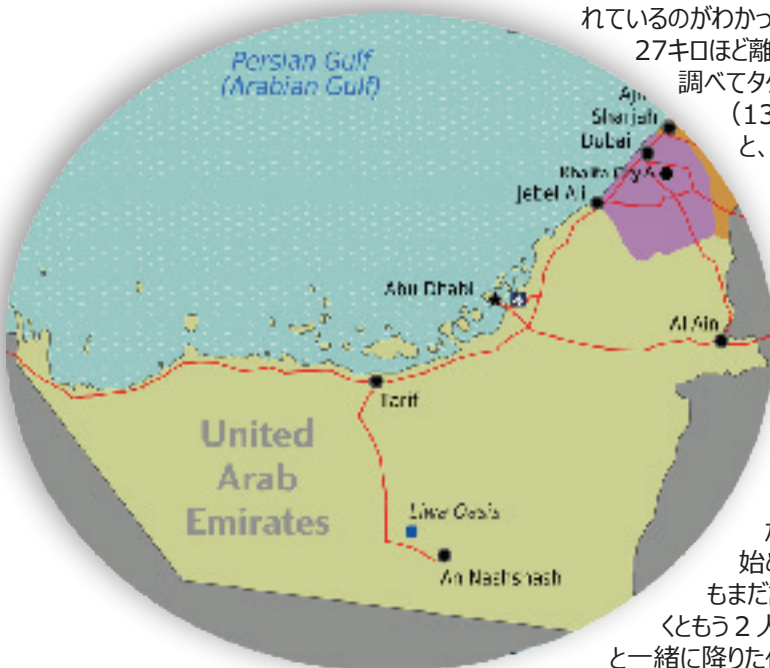
ここに、みなさんがNA Wayマガジンに参加できる新企画をご用意しました。下にあるコミックのキャプション（短い説明文）を書いて送っていただだけで、そのままキャプション・コンテストに参加できてしまうのです。みなさんのキャプションから傑作と思えるもの（1点とは限らないかもしれませんが）を選んで、次回のNA Wayマガジンに掲載させていただきます。そうやってNA Wayに名前が載るというのも、なかなかいいものでしょう。申し込みは、Eメールで受けつけています。宛先は naway@na.org。件名は「ベーシックキャプション・コンテスト」とし、本文には名前と住所を必ず記入するようにお願いします。



Dan H, California, USA

アブダビのミーティング

やあ、はじめまして。ぼくはクリス。回復の道を歩むアディクトだ。アラスカのアンカレッジにNAがあって本当によかったよ。ぼくは2010年の6月15日にクリーンになったんだ。ナルコティクス アノニマスのプログラムにつながれたことを、神に感謝しなくちゃね。そして、地元のNAニューズレターの編集者と小委員会がぼくのアブダビへの旅行記をとりあげてくれたおかげで、こうやってNA Wayマガジンにも掲載されることになったんだ。みなさん、ほんとうにありがとう。ぼくはナルコティクス アノニマスで素晴らしい経験をしてきた。アンカレッジのNAは、まったく最高だよ。ここには新しい生き方があるし、なんといってもNAのプログラムは素晴らしい。それは、先につながった仲間たちが示してくれたことだし、今つながっている仲間たちによってこれからも示してもらえる。なぜかわからないけど、ぼくはつながったときに、NAというのは小さくて、このアンカレッジだけで行われているものだったんだ。アラスカに住んでいるとね、ぼくらはなんとなく世界から孤立してるといふか、そういう感じがしたりすることがままあるんだ。それが2011年に、ぼくはサンディエゴで開かれたNAのワールドコンベンションに参加するという素晴らしい経験をした。現地に行ってみれば、そのすごさや、世界中からどれほど多くの仲間が集まるかわかるだろうと聞かされていたけど、ぼくはクリーンになって15か月かそこらで目にする事になり、このプログラムが世界中で多くのアディクトの生き方になっていること、つまり取り組めばうまくいくってことがわかったんだ。そして、2013年の2月。ぼくは父を訪ねるため、姉と姪と一緒にアブダビまで旅する機会に恵まれた。出発前には下調べをして、旅行中に出席できるミーティングがあるかどうか確認した。今回の訪問はおよそ3週間。親戚まわり、ショッピング、観光、ドバイへの旅をしつつ、5年ぶりに会う父と一緒に過ごすことになっていて、過密スケジュールだったけど、その合間をぬってぼくは少なくとも1回はミーティングに参加しよう決めていた。それはもう絶対に必要なことだった。だってさ、アンカレッジにいたら、ぼくは今でも週に5回はミーティングに出ているんだからね。それで、ぼくはうまくいっているんだ。ミーティングに出るのは、ぼくの日常の一部になっているし、これまで見聞きしてきたことから、ミーティングに出れば回復するのがわかる。ぼくはホームグループやNAのサービスにしっかりかかっているので、3週間もミーティングに出ないでやっていくことには、慣れていないんだ。アラブ首長国連邦のNAウェブサイトによって、日曜と火曜と木曜と金曜の夜にはアブダビでミーティングが開かれているのがわかった。だったら、アラスカに帰国する前日の火曜だ。ぼくはアブダビから27キロほど離れたカリファシアに滞在していたが、ミーティングの場所を地図で調べてタクシーを拾い、20分でアブダビ市内に着いた。料金は50ディルハム(13.61ドル)。ミーティングの会場があると思った場所に行ってみると、そこは教会の広場の真ん中で、屋外だった。ミーティング会場は見あたらなかった。時間は8時55分。もうミーティングがはじまる時間だ。地元のNAの電話案内に連絡すると、そのときアブダビにいたメンバーと話ことができ、このメンバーから別のメンバーの電話番号を教えられた。だが、その番号に電話をしても相手が見つからなかったのもう一度親切な電話案内のボランティアに連絡すると、さらに3人の電話番号を教えてくれた。それでやっと目指すミーティングに出ているメンバーにつながり、このメンバーがやってきて、ぼくを会場に連れていってくれたんだ。ぼくは、このミーティングで素晴らしい人たちに会った。アイルランド、エジプト、カナダ、アラブ首長国連邦からやってきたメンバーだった。ミーティングは、もっぱら英語で行われていた。アラビア語でわかちあった女性がひとりいたが、この女性はわかちあいの途中でいきなり英語を話し始めた。ミーティングが終わると、みんなでおしゃべりをし、外に出てからもまだ話は尽きなかった。それから、ぼくを会場に案内してくれた男性がぼくともう2人の仲間を車で送ってくれた。路線バスの発着センターに着いてぼくと一緒に降りた仲間は、ぼくが帰るバスを乗りまちがえないように確認してくれた。ア



ブダビであった仲間たちのおかげで、どれほどつづけたことか、言葉では表しようがない。まるでアンカレッジにいるようだったよ。

ナルコティクス アノニマスでサービスに関わっている仲間には、心からお礼を言いたい。アブダビの電話案内内で対応してくれたメンバーのようなアディクトは、ほくに示してくれた。ほくもサービスに関わり続ける必要があることと、そうすれば、自分が助けられたようにほかの人を助けることができるということをね。ほくは、自分の住むアンカレッジの広報委員会に参加しているし、これまでも心を込めてサービスを提供してきたが、今回の経験でサービスへの思いが深まった。だって、ほくは世界中どこへ行っても仲間と連絡がついてミーティングを見つけることができるんだって、しっかりわからせてもらったからね。ほくより先につなげたアディクトが言ったとおりだよ。「これは愛の物語だ。だから、私はこれからずっとこの新しい生き方に惚れ込んでいく。そうして日増しに愛が深まるのだ」

クリス・M (アメリカ合衆国/アラスカ)

サービスによって



ウォッシュボード (洗濯板)、ティム・S (アメリカ合衆国/カンザス)

しっかりする

わたしに起きたできごとは、夢のようなことばかり。わたしは回復の道に踏みだしても、「他者」というものを理解できていなかった。わたしにとっては自分がすべて。そんなだから、「サービス」のこともよくわかっていなかった。サービスなんて、だれかほかの人がやるものだった。どこまでいっても自分勝手。「わたしはサービスをするにはまだ早いわ。だって、回復の道を歩みはじめたばかりだもの」と思っていた。今なら、本当のことがわかる。サービスによってわたしはもっとやる気になるし、自分がやらなくてはならないことがどんどんできるようになるのだ。それでもまあ、わたしはミーティングでお茶やコーヒーの用意をした。それから、新しいミーティングを始めることに関わった。そのあと、電話案内の小委員会に加わって、新しく始めたミーティングのGSRIになった。今では、電話案内の小委員会で議長を努めている。こうして書いていても、これが自分だとは信じられない。薬物を使うのをやめ、使いたいという欲求がなくなり、新しい生き方をみつけるなんて。そんなこと、わたしにできるわけがないと思っていた。だって、わたしは薬物を使わずにいられないんだから、それは死ぬ日まで変わらないだろうと思っていた。

こうして書いていながら、これが自分だとは信じられない。心配性で意気地のないわたしは、おどおどして、注目のされるのがイヤ。とてもリーダーの器ではなかった。そんなわたしが今、言葉では言い表せないような恵みを手にしている。それは自分のことではなく、ほかの人たちのことだと十分に理解している。つまり仲間にも恵まれているから、わたしはあるべき人間になれるのだ。今日だけ、それは自分のことではなく、ほかの人たちのことだということをよく理解する。そうやって、わたしは回復という贈り物を仲間とわかちあうのだ。

リンディー・P (南アフリカ/ケープタウン)

助けを求めること

わたしは2011年の2月8日にクリーンになり、そのまま回復の道を歩み始めました。一足早くその道に踏みだした親友か

ら説き伏せられて、NAのミーティングに行ってみようという気になったのです。初めて参加したミーティングには仲間がいっぱいいました。みんな、わたしのことを元気づけようとハグしてくれたり電話番号を教えたりしながら、「おかえり」といって温かく迎えてくれました。その日の午前中、ミーティングに行く前に、わたしは友だちもなくひとり生きていこうと決心したんですよ。だって友だちはみんな使っていたからです。それが、まさに数分後には、ナルコティクス アノニマスでまったく新しい家族ができていたのです。それからまもなくして、わたしは集中的な外来治療プログラムに通うようになりました。それによって、自分が病気であることや、そういう病気にかかったのは自分のせいではないのだということがわかったのです。わたしは、ミーティングで耳にした提案はほとんどひとつ残らず実行しています。

最初にしたことは、大勢の仲間から電話番号を教えてもらい、数人に電話をすることでした。とにもかくにも、自分にふさわしいスポンサーを見つけようとしたのです。メアリー (プライバシーを保護するための仮名) とは、スポンサーシップを結ぶまで何度も話し合いました。最初に与えられた課題は、毎日メアリーに電話をすることと、自分が電話番号を控えている仲間のなかから毎日2人に電話をすることでした。そうするうちに、わたしには何人かの新しい友だちができました。

わたしの回復には、まさに決定的な瞬間というべきものがいくつかあります。そのひとつが、自分の幼い子ども3人をサンレイクのキャンプアウトに連れていったときのことです。わたしは末っ子のことでものすごくイライラしていました。それで、帰ろうとしていたら、となりにいたスポンサーから「助けを求めることを学ぶ」のも必要よと言われました。そんなに簡単に言わないでよ。そんなことをしたら、自分ひとりじゃ何もできないって認めなくちゃならないじゃない。それでも助けを求め、みんながわたしの子どもたちを世話してくれたことで、このNAという仲間の集まりはわたしの新しい家族なのだということがわかりました。わたしたちは、みんなで助け合わなければとてもクリーンでいることなどできないのです。あの日のことは今も覚えているし、子離れするのがどんなにつらいことであつたとしても、自分がキャンプにとどまることでNAがどういふものであるかを学べたことに感謝しています。わたしはミーティングに行くのが楽しくなりません。たいていは平日の「昼下がりのミーティング」に行っているの子ども抜きで参加することができませんが、それでも子連れで参加したことがあつたし、子どもたちも参加できるのを喜ん

でいます。

ステップ1に取り組むにあたっては、スポンサーからNAの文献をひとつお読みしてみようと言われてました。すると、どの文献もまさにわたしのために書かれていたので、わたしはステップに取り組むのが楽しみでした。<No. 7> そして、クリーンタイムが6ヵ月になるころにステップ1を書き終え、わたしが読み上げている間スポンサーはじつくり耳を傾けてくれました。わたしはNAで学ぶということが楽しくてなりません。とりわけ、わかっているつもりだったことが、実はわかっていないとわかるときってたまりませんよね。

メリッサ・C (アメリカ合衆国ノワシントン)

ローマにて

俺は、ミーティングに行く必要に迫られていた。2週間ほどイタリアを旅していて、強い処方薬が抜けつつあるところだった。イタリアのNA、といってもイタリアではちょっと風変わりな街であるローマのNAだが、ここではどんなミーティングになっているか、自分で確かめざるをえなかった。俺は弟と一緒に、ここ3日ほどアメリカ大使館の向かいのヴェネツィア通りにあるホテル（イタリアでは一流らしい）に滞在していた。俺は、弟にNAのミーティングを探しに行くと言って、出かけた。俺たち兄弟は、これまでずっとイタリアに行くことを夢見てきた。イタリアは、俺たちの先祖の出身地だと何度も聞かされてきたからな。そして、やっと、旅行費が工面できたというわけだ。俺たちは、ローマで3日間を過ごし、それからあちこちを旅してまわった。ローマ、フィレンツェ、ヴェネチア、ナポリ、ソレント、それから何だっけ、そうそうカプリだ。まったく、通りのいたるところでオフロの旧姓を目にした街のことを忘れてりやせわないな。このツアーでは、イタリアの端から端へと引きずり回され、嘆きの橋からポンペイの廃墟まで名所という名所を見尽くした。ふたりとも、頭がパンクしそうだった。そこで、ローマに滞在する3日間に、俺はNAミーティングに出席することにしたんだ。NAのホームページを開いて、イタリアのローマにあるミーティングを検索した。ひとつ、あった。オープン・ディスカッションだ。ホテルから2マイルのところ、2時間後に始まる。それじゃ、ちょっと行ってくる。弟にそう言って、ホテルを出た。タクシーで行くか。それも悪くなかった。運転手はサッカーを聞きながら、俺の話にも耳を傾けた。タクシーの運転手ってのは、チップをはずすと、まじな英語で話してくれるようになるんだ。タク

シーはヴェネツィア通りをずっと行って丘を登った。そこを左、いやシニストラ（イタリア語で左）に曲がって、それから右、デストラ（イタリア語で右）に行ってくれ。俺は限られたイタリア語を駆使して、なんとか目的地にたどりついた。会場の建物は、イタリアではめずらしくないが、ルネッサンス調で1300年か1400年ごろの様式だった。大きな化粧しつくいブロックで固められ、特大の防御用の格子が底部にはめ込まれている。それはもともと疫病にかかった者が中に入れないようにしたものと言われている。そして、NAのミーティングではおなじみのことだが、建物の外で数人がたむろして話していた。ミーティングの会場は地下室だった。地下に降りてみると、ここではいろんな会のミーティングが開かれているのがわかった。廊下の壁に、あれこれとお知らせが貼ってあり、少なくとも4種類の12ステップ・プログラムのミーティング会場として使われているようだった。期待にたがわず、ドーナツと極上のコーヒーの匂いがした。部屋の奥にある棚には、手作り

ないけど、なんとなく尋ねてはいけないような感じだった。ミーティングは、イタリア語でわかちあわれていった。それにしても、みんな、ファッション雑誌から抜け出してきたみたいだな。髪もピシッと決まって、着こなしもスマートだ。革靴もソックスもセーターもおしゃれで、ファッションショーのようだった。ミーティングではタバコが吸えるようになっていたが、アメリカとは吸い方がちがっていた。5分おきぐらいに、ひとりが一本吸ったら、それで終わり。ひっきりなしに吸い続けるような人はいなかった。それと、このミーティングには犬もいた。イタリアではたいていどこでも犬は尊ばれて歓迎されるので、犬がいることには驚かなかったが、喫煙者が多いことにはさすが面食らわされた。みんなが話していることは一言も理解できなかったが、俺はわかちあう必要があった。11年クリーンでいてリラプスし、それからはクリーンタイムが長く続かないのですっかり参っていたんだ。そのとき、俺の後ろにいた仲間が聞いてきた。「ねえ、わかちあってみるかい？ 通訳してあげるよ」

「ねえ、わかちあってみるかい？ 通訳してあげるよ」

おぼしき巨大なパネトネが置いてあった。これは、背の高いドーナツ型のケーキで、ストリングチーズのように手でちぎって食べるんだ。そして、その隣には、もう申し分ないほどにしっかりと抽出されたエスプレッソ・コーヒーのポットとカップが置かれていた。俺は、この素晴らしいごちそうを手を持ちきれないほど抱えて、部屋の中央に向かった。部屋には、15人ぐらい集まっていた。みんな、イタリア語で話してた。俺は遅刻したと思ったのだが、これはAAミーティングだという説明があった。そして15分くらいすると、NAミーティングがはじまり、AAミーティングに出ていた人たちの多くがそのままどまった。その間に、俺は、英語を教えるためにイタリアに移ってきたというアメリカ人の女性と出会った。こっちに来て6ヵ月ぐらいで、イタリア語はわからないと言いつつも、ここで行われていることを説明しようとしてくれた。俺は、お代わりをにしに夢のようなカフェバーのところへ行き、ふと電気系統に目があった。この建物はできてから600年以上も経っているのに、その地下室の電圧は220ボルトになっているじゃないか。まったくイタリアらしいな。すごくおしゃべりだ。長いこと電気技師をしてきた俺としては、好奇心をそそられた。色も鮮やかで高品質のものだった。そして、ミーティングが始まった。部屋の前方にあるテーブルに女性がひとり座ってノートを取っていた。何を書いているんだろう？ わから

。それじゃ、とお願いした。俺は、もう一度クリーンになるうとして苦労していることや、イタリア旅行の夢、よその国にいてミーティングに出られることのありがたさなどを話した。俺の話はみんなに受けとめられ、ミーティングは続いた。そうしてわかちあわれる話を、後ろの仲間が説明してくれた。この男性は、アディクトの自分がクリスマスを無事に過ごせるかどうか心配している。この女性は、使うのをやめられない夫のことを心配している。といった具合だ。こうやって通訳してくれる仲間がいてくれるなんて、俺はすごくラッキーだったよ。ミーティングの終わりがきた。俺は、前の方へ呼ばれてホワイトチップをもらった。「歩みを止めないでね」という声があった。前の席でノートを取っていた女性だ。俺がノートをちらっと覗きこもうとしたら、ダメっ！と言うかのように、この女性はノートを抱え込んで見せまいとしたけど。知られちゃまずいことが書いてあるのはまちがいない。なにはともあれ、みんなとても親切だったし、そばに来てハグしてくれた。心から歓迎されると感じた。俺は部屋の奥へ行ってコーヒーとケーキのお代わりをしながら、通訳してくれた仲間とお互いの国や文化の違いについて語り合った。この仲間は2年ほどロスアンジェルスに住んでNAにも出席していたので、アメリカとイタリアのNAのことはよくわかっていると聞いていた。みんなは、これからトスカナの丘陵で数人の仲間たちが開くハ

ウスパーティに行くので、俺も来ないかと誘ってくれた。俺も行きたかったが、パーティが終わったらひとりで帰ってこなければならなかった。それで、弟が今ごろひとりぼっちで寂しい思いをしているにちがいないから、ホテルに戻らなければならないんだと言って断った。それでも、仲間と出会えて本当にうれしかったし、こうして温かく歓迎してもらったことに心から感謝しているとお礼を言った。俺は歩いてホテルに帰ると、この日の経験を弟に話した調べてみると、イタリア全体で開かれているミーティングの数はほんのわずかだった。たぶん32くらいじゃないかな。俺のいるエリアの4分の1しかないってことだ。俺はあのときもらったホワイトチップでグリーンになったわけじゃない。歩みを止めずにいる力がよみがえるまで、あれからさらに2年かかったが、ローマのナルコティクスアノニマスで経験したことは絶対に忘れないだろう。Solo por oggi (ソロ・ポロジ、イタリア語で「今日だけ」)、感謝の気持ちでいられる。ほんとうにありがとう！

ロン・K (アメリカ合衆国/フロリダ) ハイエリア発行の「ジャスト・フォー・トゥデイ・オン・ベイ・エリア」から転載

夢にも思わないこと

あたしのNAワールドコンベンション初体験は、テキサスのサンアントニオでのことだった。回復の道を歩むアディクトが10,000人以上も集まったというのに、あたしはグリーンになって25日ですりぼっち。どうしたらいいのか、なぜこんなところにいるのかもわからなかった。寂しくてたまらず、朝一番の飛行機に飛び乗って家に引き返したかったわ。外に座りこんでタバコを吸っていたら、泣けてきた。こんなことなら、参加登録なんかしなけりゃよかった。そんなわたしに気づいたメンバーが何人かいて、大丈夫かと声をかけてくれたの。「ダメよ」と言いながら自分がどんな思いでいるかを話すと、みんなはわたしのことを抱きしめてなだめすかすように言ったの。ここにいれば大丈夫だよ。いいかい、NAというのは「Never Alone (ひとりじゃない)」って意味でもあるんだからってね。温かい気持ちが伝わってきて、歓迎されているんだってわかった。それから、たくさんの仲間を紹介してもらったわ。みんな今もつながりがあって旅を共にしているのよ。こうして出会った仲間たちは、このプログラムがどういう風に自分たちに効果があったか、そしてどうすればあたしの回復に生かせるかという話しをしてくれた。あたしはみんなの提案を取り入れて、ワークショップやスピーカーミーティングに出席してみることにした。どれも、あたしの回復とは切り離せないものだったわ。一心に打ちこんでいると、感じがつかめてきた。それからはずんわりと、のみこめるよう

になっていったの。まわりを見る余裕もできた。みんな、ハグしながらあいさつを交わし、電話番号を交換したり集合写真を撮ったりして楽しい時間を過ごし、雰囲気心ゆくまで味わっている。すごいなあって思った。あたしもそんな気持ちで味わいたかったの、みんなの輪に飛びこんでいったわ。そういことがバミューダの回復を次の段階にもっていくことになるとはね。なにもかも、神のはからいだったのだと気づかされた。あのときには、みんなが何の話をしているのかも、自分がいったい何を理解しようとしているのかも、わかってはいなかったけれどね。あたしが一番忘れられないワークショップは、「ニューカマーズ (NAの新しい仲間たち)」をテーマにしたものだった。スピーカーのひとり、NA全体で最もグリーンタイムが長いメンバーのひとりだった。ワークショップが終わってこのメンバーに会ったときに、あたしは回復の道を歩みだして25日でNAのことがほとんどわかっていないという話しをした。するとこのメンバーは、歩みを止めないでこのままNAにとどまっていれば、ほかの仲間たちのように奇跡が訪れると言ってくれたの。そして、『ベーシックテキスト』のなかにあるこの仲間の話のページにサインをしてくれたわ。これって、すごいことよね？パンケットも、グリーンタイムのカウントダウンも、参加国の紹介も、すばらしいものだった。このホールには、バミューダの人口の約4分の1に等しい人数が集まっていたのよ。あの盛り上がり、興奮、ざわめきは、今もあたしをとらえて放さない。あたしはピンクの雲というものがわかった。とにかく、自分の国に帰ってこの経験を話すのが待ちきれなかったわ。あたしは、ホームグループ「キーピング・イット・リアル (自分の心に正直になる)」で必ずおずと改革を実行していった。この新しい考えは、グループのメンバーたちから抵抗なく受け入れられたわ。みんな、わたしが別人のようになって

ているのがわかったし、わたしのような気持ちになりたいと思ったからよ。少し前のことだけど、アイデアがひらめいて、ハイヤーパワーがわたしの心に働きかけてきた。グループの良心をはかるミーティングを開いて、ホームグループでフィラデルフィアのワールドコンベンションに行くことを勧めようってね。参加できるメンバーはみんな張り切ったわ。普通預金口座をつかってこの計画を実現したのよ。本当に素晴らしい時間を過ごしたわ。

リオはどうする？

待ちきれないよ！

WCNA35から戻ってホームで開かれた初めてのミーティングは、オープンミーティングだった(いつもはステップミーティングを開いている)。あたしたちはみんな、まだ元気いっぱい、いろいろな感情を手放せないでいた。なにしろ、ほとんどのメンバーにとってはワールドコンベンション初体験だったからよ。みんなが元気を取りもどしてコンベンションでの経験をわかちあうのを見るのは、わたしにとって実にうれしくてありがたいことだった。それで、リオはどうする？これが、今やコンベンションに参加したメンバーたちの合い言葉になっている。みんな、もう待ちきれないのだ。

NAにしがみついてとどまろうとしているかぎり、神はあたしのためになることを考えてくれるのよね。そんな大それたこと、6年前のあたしは思いもしなかった。こうして夢がかなったのも、ハイヤーパワーと、フィラデルフィアのNA、NAワールドサービス、そしてスポンサーや仲間たちのおかげだと心から感謝しているわ。

ヴァーニス・F (バミューダ/ウォリック)



Street Sign, Conor H, Dublin, Ireland

『伝統』に関する書籍のプロジェクト 最新情報

少人数のグループによる意見収集

『伝統』に関する書籍のプロジェクトは、2012年から2016年までの4年間に及ぶプロジェクトとして2012年のワールドサービスカンファレンスで承認された。これにより、まず2012年から2014年までの2年間は、こうすればNA全体で伝統を最も有効に活用できるという資料、意見、アイデアなどの収集にあてられ、次の2014年から2016年までの2年間は、草稿の作成とNA全体による見直しおよび意見提供にあてられる。こうして仕上がった草稿は、2016年のWSC（ワールドサービスカンファレンス）で承認をはかることになる。私たちは、これまでにさまざまなエリアやリージョンのワークショップによる意見提供をいただいたことに気をよくし、さらに多くのメンバーがこのプロジェクトに気軽に関わられるよう短時間のワークショップの形式をつくった。これについては、NA Wayマガジンの1月号と7月号に掲載することでみなさんの利用をうながしていくつもりである。このように少人数のグループで議論を進めていくというやり方なら会話も弾みやすいので、ホームグループやメンバー同士で集まって経験と力と希望をわかちあうチャンスにしていきたい。その際に、議題としやすいような質問を次のページに記してあるが、このような質問から外れた意見がとびだすこともあるとしても、みなさんの意見としてぜひ提供していただきたい。

話し合いの段取りをつける

まず、信頼されるしもべを1人か2人、話し合いの進行役に選ぶ。あらかじめここに掲載した資料を読み返してからミニ・ワークショップを計画するようにすれば、議事の進行がもたつくことはないだろう。このワークショップでは毎回、ひとつの伝統に焦点を当てる。どの伝統について話し合うかはグループで選んでもよいし、進行役に決めてもらってもよい。10～11ページにあるワークショップの概要には、各伝統ごとにNA文献にもとづいた簡単な注釈や議題などが盛り込まれている。話し合いの際には『ベーシックテキスト』と『なぜ、どのように効果があるのか』とともに、12ページにある「12の伝統のサマリーシート（12の伝統の要約集）」も持参すると役立つかもしれない。このワークショップの概要は、20分間のグループ・ディスカッションを対象とするものだが、実のある議論が交わされるように内容を手直してもかまわない。どのぐらいの頻度でワークショップを開くかはグループに任される。場合によっては、2014年を通して月に一回の開催とすることもあるだろう。いつワークショップを開くかも、自分たちの都合次第で決めればよい。ミーティングの前後、スポンサーたちと一緒に、GSFミーティングの一部として、あるいはサービス委員会の前後など、集まる機会はいくらでもあるだろう。また、話し合いをするにあたってだれかに議事録を取ってもらったり、話し合いの終わりに個々のメンバーが考えを書きとめる時間をつくったりするのもよいかもしれない。意見提供は、グループでひとまとめにして送っていただくか、メンバーが個別に送っていただくようお願いする。これを簡単にすませたい場合には、手書きの意見を写メールにして worldboard@na.org へ送信していただいてもよい（ただし、読みやすさを心がけていただくようお願いする）。なお、この各伝統に関するミニワークショップの概要は、www.na.org/traditions で入手可能になっている。

議論を重ねていく おすすめの形式

Th ここに紹介するワークショップは20分間にわたる議論のためのものだが、グループの意向によっては話し合いの時間を短縮したり延長したりしてもよいだろう。質問は、あくまで話し合いの第一歩としていただくためのものにすぎない。活発で刺激に満ちた議論が交わされることで、これまでとは違う側面から伝統を理解し合う試みになるようお願いしている。

- ◆ テーマとする伝統を選ぶ。

- ◆ はじめに黙禱してから、『平安の祈り』もしくはグループで決めた祈りを唱える。

- ◆ 書記を担当するメンバーを決め、グループのメンバーがわかちあうユニークな経験やアイデアをしっかりと書きとめてもらう。スピリチュアルな原理や文献の引用による一覧表とはまったく別物になるはずだ。

- ◆ ひとりのメンバーに、テーマとなる伝統とワークショップの形式に関する説明文を読んでもらい、もうひとりのメンバーには「12の伝統のサマリーシート（12の伝統の要約集）」にある伝統の抜粋を読んでもらう。

- ◆ 必要に応じて、別のメンバーにNA文献からいくつかの段落を追加で読んでもらう。

- ◆ 議題をひとつ選ぶ。または、議題を抜きにして自由に話し合ってみるのもよい。

- ◆ できるだけ多くのメンバーに経験やアイデアをわかちあってもらおう。進行役は、メンバーたちに考えを明確にしたり補足したりするように求めてもよいが、解釈について議論するまえに全員がわかちあえるようにしてあげよう。

- ◆ 決められた時間で話し合いを終えるようにしよう。ただし、メンバーたちにもっと話し合いたいという熱意が残っているなら、堅苦しく考えずに続行してもいいし、次の議題に進んでもいい。さもないければ、「ミーティングの後のミーティング」で議論を続けてもいいだろう。

- ◆ みなさんのメモ書きは、写メールにして worldboard@na.org へ送信、www.na.org/traditions にあるアンケート用紙に記入、あるいはNA World Services; PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409 まで郵送と、いずれかの方法で提供していただくようお願いする。

伝統 1

「第一にすべきは全体の福利である。個人の回復はNAの一体性にかかっている」。

.....

全体の福利を第一にすることは、私たちが皆、NAの福利に対して対等に責任を負っていることだと言える。仲間たちの支えがなけ

各伝統に関するミニワークショップの概要は、以下のサイトで入手可能です

www.na.org/traditions.

みなさんのフィードバックやアイデアは、以下のアドレスにお寄せください。

worldboard@na.org.

ご協力に感謝いたします！

ればメンバーが生き残れないように、メンバーがいなければ、NAは生き残ることができない。

議題

- ◆ どうして自分の回復がNAの一体性にかかっているのか。

- ◆ 重要なことで意見が一致しない場合、私たちはどうやって心をひとつにしていくのか。

- ◆ 自分はひとりのメンバーとして、NAに対してどのような責任を負っているか。グループまたはサービス機関のNAに対する責任には、どのようなものがあるか。

- ◆ 伝統 1 に関して、自分にとって最も重要なことは何か。

伝統 2

「私たちのグループの目的のための最終的権威はただ一つ、グループの良心の中にあられる愛なる神である。私たちのリーダーは奉仕を任されたしもべにすぎず、彼らは決して支配しない」

.....

最高の権威からの導きを得たいと思ったら、その導きに全員で耳を傾ける方法を見つけだす必要がある。そのとき使う手段がグループの良心だ。グループの良心についても、個人の良心とほぼ同じ考え方ができる。グループの良心は、スピリチュアルな行動指針に対するメンバー全体の気づきや、理解や、その行動指針への降伏を表すものだ。

議題

- ◆ グループの良心とは、何か。

- ◆ リーダーシップと支配の違いは、何か。

- ◆ 私たちは、グループの良心をはかるうえで最高の権威となるものをどうやって招き入れるのか。そして、最高の権威がその場にいるとどうしてわかるのか。

- ◆ 伝統 2 に関して、自分にとって最も重要なことは何か。

伝統 3

「メンバーであるために要求される唯一のことは、使うことをやめたいという願望だけである」。

.....

伝統 3 が、私たちがこうしてアディクトたちを迎え入れるよう、後押ししてくれているおかげで、NAは成長を続けている。メンバーになるかどうかは、私たちではなく、メンバーがそれぞれ自分で決めることだ。私たちがすべきことは、やめたいという願望を一層強くしてもらうことであって、その気持ちをそぐことではない。伝統 3 の言いまわ

しは、ステップ1の許容範囲の広さを表すものだ。

議題

- ◆ 自分のグループは、どんな雰囲気になっているだろうか。メンバーたちは歓迎されていると感じることが多いか。それとも、あまり歓迎されていると思えなくなっているだろうか。自分自身は、ほかのメンバーにどう接してきたか。
- ◆ だれがメンバーになるかを、グループが決めてよいのか。
- ◆ この伝統は、私たちの共通の福利をどのように支えているか。
- ◆ 伝統3に関して、自分にとって最も重要なことは何か。

伝統4

「各グループは自律的でなければならない。ただし、他のグループまたはNA全体に影響を及ぼす事柄においてはこの限りではない」

.....

自律的であれば、独自のやり方でメッセージを運ぶという創造性を発揮できる自由がある。そしてNA全体や、地元のNAコミュニティの隙間を埋めるのはグループの役割だ。しかし、自律性が確保されているのだから、グループは、伝統に書かれたスピリチュアルな行動指針を守ったり、生かしたりする責任などないはずだと考えるのはまちがいだ。

議題

- ◆ これはNA全体に影響を及ぼすことだと、どうして私たちにわかるのか。
- ◆ 私たちは、自律と責任との間でどうやってバランスを取るのか。
- ◆ NAでは、なぜ、自律と創造性を発揮する自由がそれほど重要になるのか。
- ◆ 伝統4に関して、自分にとって最も重要なことは何か。

伝統5

「各グループの第一の目的はただ一つ、まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶことである」。

.....

伝統5は、私たちの目的を第一に考え、それを誠実に実践することを求めている。結局、私たちの第一の目的はまだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶこと以外にありえない。私たちに与えることができるのはそれだけなのだ。

議題

- ◆ ひとりのメンバーとしても、グループやサービス機関としても、第一の目的を推し進めるために私たちは何ができるか。
- ◆ 回復の雰囲気とはどういうものか。どうすれば、そのような雰囲気を育むことができるのか。
- ◆ 私たちの気持ちを第一の目的からそらすものは、何か。集中できていないと気づく方法はあるか。
- ◆ 伝統5に関して、私たちにとって最も重要なことは何か。

伝統6

「NAグループはいかなる関係ある施設にも、外部の組織に対しても、支持や融資をしたり、NAの名前を貸したりしてはならない。金銭や所有権や名声の問題が、私たちを第一の目的からそれさせるおそれがあるからである」

.....

伝統6が境界をしっかりと定めているために、NAグループは、いろいろな団体の間で年中起こっているやっかいな問題から逃れることができている。伝統6は、グループがそのような問題に巻き込まれることなく、回復を求めるアディクトにNAのメッセージを運ぶことだけにエネルギーを集中できるように配慮している。

議題

- ◆ 協力すると支持または提携するのでは、どう違うのか。
- ◆ 協力関係であったのが、なんとなく支持や提携になってしまうことがあるとすれば、どの時点でそうなるのか。
- ◆ 私たちが外部の企業と起こしやすい対立とは、どういうものか。また、そのようないざこざに対処するにはどうしたらいいのか。
- ◆ 伝統6に関して、自分にとって最も重要になることは何か。



The Twelve Traditions of NA ナルコティクスアノニマスの12の伝統

First Tradition

Our common welfare should come first; personal recovery depends on NA unity.

Our First Tradition concerns unity and our common welfare. One of the most important things about our new way of life is being a part of a group of addicts seeking recovery. Our survival is directly related to the survival of the group and the Fellowship. To maintain unity within NA, it is imperative that the group remain stable, so the entire Fellowship perishes and the individual dies.

Second Tradition

For our group purpose there is but one ultimate authority—a loving God as He may express Himself in our group conscience. Our leaders are but trusted servants; they do not govern.

Our direction in service comes from a God of our understanding, whether we serve as individuals, as a group, or as a service board or committee. Whenever we come together, we seek the presence and guidance of this loving Higher Power. This direction then guides us through all our actions. [...] When we choose a member to serve us in some capacity, we exercise mutual trust.

Third Tradition

The only requirement for membership is a desire to stop using.

The Third Tradition encourages freedom from judgment. It leads us on the path of service toward an attitude of helpfulness, acceptance, and unconditional love. [...] Addiction is a deadly disease. We know that addicts who don't find recovery can expect nothing better than jails, institutions, and death. Refusing admission to any addict, even one who comes merely out of curiosity may be a death sentence for that addict.

Fourth Tradition

Each group should be autonomous except in matters affecting other groups or NA as a whole.

Each group does have complete freedom, except when their actions affect other groups or NA as a whole. If we check to make sure that our actions are clearly within the bounds of our traditions, if we do not dictate to other groups, or force anything upon them, and if we consider the consequences of our action ahead of time, then all will be well.

Fifth Tradition

Each group has but one primary purpose—to carry the message to the addict who still suffers.

What is our message? The message is that an addict, any addict, can stop using drugs, lose the desire to use, and find a new way to live. Our message is hope and the promise of freedom. When all is said and done, our primary purpose can only be to carry the message to the addict who still suffers because that is all we have to give.

Sixth Tradition

An NA group ought never endorse, finance, or lend the NA name to any related facility or outside enterprise, lest problems of money, property, or prestige divert us from our primary purpose.

Within the limits established by Tradition Six, we have tremendous freedom to carry the message of recovery and help other addicts. We have clear boundaries set by our identity as Narcotics Anonymous. When we take care to observe those boundaries, our outside relationships enhance our ability to carry the message to the addict who still suffers rather than diverting us from our primary purpose.

Seventh Tradition

Every NA group ought to be fully self-supporting, declining outside contributions.

By encouraging our group to pay its own way, the Seventh Tradition gives our group the freedom to share its recovery as it sees fit, not obligated to outside contributors. Further, it gives our group the freedom that comes from inner strength, the strength that develops through applying spiritual principles.

Eighth Tradition

Narcotics Anonymous should remain forever nonprofessional, but our service centers may employ special workers.

In this tradition we say that we have no professionals. By this, we mean we have no staff psychiatrists, doctors, lawyers, or counselors. Our program works by one addict helping another. If we employ professionals in NA groups, we would destroy our unity. We are simply addicts of equal status freely helping one another.

Ninth Tradition

NA, as such, ought never be organized, but we may create service boards or committees directly responsible to those they serve.

NA groups join together, combining their resources to create service boards and committees that will help them better fulfill their primary purpose. These boards and committees are not called to govern NA; they are called, rather, to faithfully execute the trust given them by the groups they serve.

Tenth Tradition

Narcotics Anonymous has no opinion on outside issues; hence the NA name ought never be drawn into public controversy.

There are a great number of addiction-related issues that others might expect a worldwide society of recovering drug addicts to take positions on. [...] Our answer, according to Tradition Ten, is that our groups and our fellowship take no position, pro or con, on any issues except the NA program itself. [...] For our own survival, we have no opinion on outside issues.

Eleventh Tradition

Our public relations policy is based on attraction rather than promotion; we need always maintain personal anonymity at the level of press, radio, and films.

The existence of a public relations "policy" implies the importance of a public relations "program" in carrying out our fellowship's primary purpose. [...] As NA groups, service boards, and committees, we deliberately and energetically cultivate good public relations, not as an incidental result of our normal activity but as a way to better carry our message to addicts. [...] Public anonymity helps keep the focus of our public relations on the NA message, not the PI workers involved.

Twelfth Tradition

Anonymity is the spiritual foundation of all our traditions, ever reminding us to place principles before personalities.

Anonymity is one of the basic elements of our recovery and it pervades our Traditions and our Fellowship. It protects us from our own defects of character and renders personalities and their differences powerless. Anonymity in action makes it impossible for personalities to come before principles.

広報活動

NA NAは、アディクトでなはい一般の人たちといろんな関わり方をしている。国や地域によっては、広報委員会がポスターによるキャンペーンや屋外の広告用掲示板を利用して、NAがアディクトに利用可能な資源であることを地域社会に知ってもらおうとすることも。そしてまた、広報委員会のメンバーが治療施設や病院の救急病棟のスタッフや高校を対象にしてNAの説明会を開いたりすることもあれば、麻薬裁判所や矯正施設のカンファレンスや健康に関する催しなどに広報委員会が参加することもある。これを読んでいるみなさんのなかには、「私たちの広報委員会はこのようなサービスを全部行っている」じゃないか、すごいなあと思うメンバーもいるかもしれない。サービスは、回復を求めているアディクトにとってはもちろんのこと、アディクトではないが大切な人がアディクションという病気にかかっているという人にとっても、NAの価値を知ってもらおう素晴らしい方法になるのだ。広報によるサービスには、アディクトとかがわっている専門家との関係を維持するという側面がある。このような専門家の多くがNAのことを知らずにいたり、さもないと、NAはヘロイン依存症者のためだけにあるといったような誤解をしていたりするかもしれないからだ。いやいや、2013年現在でも依然として、ナルコティクス アノニマスという名称は一部の人たちに混乱や誤解を招くものとなっている。だが幸いにも、私たちにメンバーシップ調査がある。これによって、NAは使っている薬物の種類に関係なくどのようなアディクトにも効果があることが一目瞭然なので、治療や、司法、医療の分野で活躍している専門家なら、私たちの友人になってもらえる。そうなれば、NAのことやNAがアディクトが回復するプログラムとして有効であることを、自分たちの同僚に伝えてくれるだろう。ごく最近マカオで開かれた国際会議は、そのよい例である。この2013年10月のNGO（民間公益団体）による薬物乱用防止の国際会議にはNAワールドサービスが出席したのだが、その席で国連の代表者2名が議長に対してNAの有用性について語ってくれたのだ。マカオの治療社会では現在、患者の治療にNAミーティングを取り入れることが試みられている。このような専門家との関係がいつになったら苦しんでいるアディクトたちの助けになるのか。そして、私たちの取り組みが実を結ぶのにどれほどの時間がかかるのか。私たちに知るよしもないが、それでも専門家と会って積極的にサービスを提供し続けていく。現に、インドネシアはマカオの例を地で行っている。NAワールドサービスは2012年にインドネシアのバリ島で開かれた治療学会の世界連合会議に出席したことで、インドネシアの更生施設の所長と地元で薬物問題を目の当たりにしている一般の人たちとともに、4度にわたってNAのミーティングを行うという幸運に恵まれた。インドネシアでは国をあげてNAを治療のアフターケア・プログラムに取り入れることが

検討されているため、ミーティングの出席者からは多くの質問があった。それから1年して、このようなNAミーティングが開かれるようになってきたのだから、どれほど多くのアディクトが回復のメッセージを耳にする機会を手にするようになるか、想像してほしい。NAワールドサービスはこのほかにも、2013年9月にフィラデルフィアのWCNA35で専門家による広報のパネルを2つ主催した。ひとつは、ペンシルバニアのアディクション関連施設の主事をはじめとする治療の専門家を主役とし、もうひとつは、カリフォルニア、ペンシルバニア、ニューヨークで活動する専門家によって矯正施設に焦点を当てるものとなった。また、H&I（病院施設）の信頼されるしもべたちが矯正の専門家たちとの関係を育んできたことによって、ユニティデイの呼びかけ（WCNA35の閉会式に行われた）では101の施設に収容されているアディクトたちに希望のメッセージが届けられた。この2013年の呼びかけには、初めてのことがいくつかあった。北米以外（英国）にある矯正施設、連邦刑務所、青少年拘留施設から、それぞれ1箇所の初参加があったのだ。そして101の施設で15,000人にのぼるアディクトがユニティデイの参加したのも、初めてのことだった。つまり、実際に閉会式に出席したアディクト（12,000人ほど）を上回る数のアディクトが電話回線によってメッセージを耳にしたというわけだ。閉会式の出席者と電話による参加者の数を合計すると、2014年のユニティデイのミーティングは、これまで世界中で開かれたミーティングのなかで最大のものとなるはずだ。広報によるサービスの取り組みはきわめて重要であり、回復のメッセージを運ぶ助けになる。だが多くの場合、広報のおかげでメッセージを運びやすくなったという声を耳にするのは、信頼されるしもべたちが飽くなき努力を重ねてそれなりの時間を経て（1年かそこらして）からのことである。



WCNA 35 PR Forum

・・・町中を巡ってでも、精力的に活動していこう という私たちの姿勢が必要だ。・・・NAのプログラムを もっとたくさんの人たちに知ってもらおうためには、力強い一歩を踏みださなければならない。

『なぜ、どのように効果があるのか』、「伝統11」

フェローシップ ディベロップメント：

共同作業

この連載記事では、NAが世界的に成長して変化していくさまざまな方法を探っていくことになる。フェローシップディベロップメント(FD)は、なにも「よその国」で行われるものとは決まてはいない。NAではいたるところにフェローシップディベロップメントの機会があるので、メンバーやサービス機関は絶え間なく活動している。それによって私たちの第一の目的を実現しようとしているのだ。NA Wayマガジンではこれからもひきつづき、世界中のさまざまな地域にあるNAで行われている（以下にリストアップしたような）FDに関する経験をお伝えしていく。

- ・ アメリカのNAでは州規模で保健衛生、アディクション治療、刑事司法機関との関係を強化している。
- ・ エリアやリージョンのサービス委員会では、地元のメンバーが定期的にサービスの研修を受けられるように会議を企画している。
- ・ 新しく誕生しつつあるNAが地域に定着してしっかり成長していくように、いくつかの地域のNAとサービス機関とによる共同作業が行われている。
- ・ さまざまなNAメンバーが、へんびな地域にあるミーティングや、苦勞しているミーティングを支援している。・ 近隣の地域にあるサービス機関ではサービスの重複を明らかにし、自分たちの資源をもっと有効活用して活動範囲を広げるように協力している。
- ・ いくつかのホームグループが、ミーティングにみられる回復の雰囲気定期的に検証して改善している。
- ・ さまざまなサービス機関が、地元のメンバーやグループと対話するために革新的な方法を探って実践している。

以上は、さまざまな地域のNAがNAのフェローシップディベロップメントに貢献しつつあるやり方を、一部取り上げたものにすぎない。今月号ではひきつづき、ミネソタリージョンにみられる革新と、ジョージア州で行われている人間関係能力の養成、アフリカ大陸での成長と発展などについてお伝えする。みなさんのNAでFDに関する経験やアイデア、成功例などがあれば、NA Wayマガジンの誌面で世界中のNAにわかちあえるように、naway@na.orgへお知らせいただくとありがたい。

“ミネソタに吹く「新しい風」”

**Narcotics
Anonymous
Minnesota Region**



(編集記) これは、ミネソタリージョンのフェローシップディベロップメントによる取り組みを紹介するものとして、2013年10月号より連載を開始した記事の第2弾である。

NAミネソタの改革を進めていくなかで委員会システムが廃止されると、さまざまなプロジェクトの案がリージョンに行き渡り、年1回の集会も優先事項

を割り当てる場になった。それにより、ミーティングリストを正確で利用しやすいものに改良すること、ミネソタリージョンのウェブサイトを改善すること、メンバーのためにサービスの機会を多く提供することが最優先事項とされた。ミーティングリストには正確さが求められていたことから、「ベーシック・ミーティング・リスト・ツールボックス」によってミネソタリージョンのデータベースを一本化し、地域や地理や共通の要望などに合わせてさまざまな種類のミーティングリストを作成できるようにした。そして、プロジェクトチームをつくってデータベースの管理と更新を一括して行うことにしたため、メンバーやグループ、エリア、NWAS (NAワールドサービス)、さらには一般の人たちにも役立つサービスが提供できるようになった。また、ミーティングに関するデータベース

の一本化は、NAWSとの足並みをそろえることにもなる。手駒がかぎられていても、その少ない人的資源でやれることはたくさんある。その例をもうひとつ紹介しよう。NAミネソタでは、メンバーたちがサービスに関わる新たな機会はないものかと考え、扉の向こう側にいるアディクトのスポンサーになってもらうことにした。そこで私たちは、サンタ・クルーズのH&I（病院施設）委員会に協力関係を結ばないかと働きかけた。このままミネソタでメッセージを運ぶ人員と施設を重複させるよりも、これからはそのような取り組みが必要だった。サンタ・クルーズの「扉の向こうとのスポンサーシップ小委員会」では、ミネソタのメンバーがカリフォルニアの小委員会と一緒にサービスに関わることを歓迎してくれたので、受刑者からのメールを受け取って一対一のスポンサーシップを提供するというきわめて重要なサービスから、双方が恩恵を受けることになった。そして、リージョンの合意を受けてサンタ・クルーズとの共同作業を始めてから4日もしないうちに、NAミネソタにはミネソタ州の矯正局から問い合わせがあった。なんと、施設の「お客さんたち」がスポンサーシップをとれるように手続きの方法を尋ねてきたのだ。このように、委員会に出席しなくても私たちが取り組めることはいくらかあるというわけだ。だったら、もっと変わるのではないか。地元のメンバーからこんな意見があった。「NA.org（NAのウェブサイト）には、さまざまな国や地域で開発された資源が見事なまでにそろっている。私たちに欠けているのは、このような成功事例につながる人脈づくりだ。地元で求められていること、つまり他ならぬ自分たちが続けてきた挑戦を無駄にしないために何か変わったことをしようとするなら、たいていの場合には手をつなぐ相手を必要とするものだろう」というのだ。NAミネソタでは、実地で経験を積んでいるメンバーたちと、地元に適した革新を実践することを望んでいるメンバーたちが、エリアやリージョン、さらには国という境界を飛び越えてつながることを願って「コラボレーション・ジャンクション（共同作業による結びつき）」（これは「サービスの実習の場」として知られているものだ）を発表した。こうして、意欲的なメンバーたちが自分たちならではのサービスの手腕やノウハウを掲載する場が設けられたのだ。このような場があれば、ウェブ上で共有される共同作業のさまざまなツールを利用したり、コンベンション実行委員のために501（c）3ステータス*の手配をしたり、図形や絵をこらしたチラシのサンプルフォームを何種類もつくったり、扉の向こうとのスポンサーシップによるプログラムを準備したり、合意に基づく意思決定を進めていったりと、どのようなア

イデアも生かしていけるだろう。つまり、ひとりのメンバーが「共同作業による結びつき」というリストに自分の専門知識や技術と連絡先を記入すると、革新に関心のある世界中のメンバーたちはこの刺激的なリストを閲覧することで、すぐにも共同作業のできる相手が見つかるというわけだ。ミネソタでの変革がうまくいったのは、ステップ3によって私たちが毎日、明日の夢と昨日の決心についてじっくり考えるようになったためである。まるで何事もないかのように、今日の問題に対して昨日の解決が正しく適切であるかのごとく、これまでやって来たやり方をずっと続けていたら、私たちの意思と命をそれぞれに理解する神の配慮にゆだねることにはならない。ステップ3によって、私たちは昨日から抜け出せずにいることはなくなるのだ。時間やテクノロジー、人材、資金という私たちの貴重な資源をさらに有効活用すれば、このプログラムによってもたらされるはずの自由に一歩近づく人たちが増えるのだ、と私たちは固く信じている。*「501（c）3ステータス」は、アメリカ国内でNPO法人／基金／財団となるために必要な認定資格

モンティ・J（アメリカ合衆国／ミネソタリージョン代表）

エリア、リージョン、ワールドサービスによる共同作業

T ジョージア州では年一回、アディクションに関する学会が開かれている。2013年の8月26日～30日に開かれた第7回の学会には、ジョージアリージョンの広報委員会が招かれた。この学会には、知識基盤を広げてプロライセンスを維持しようとするセラピストやカウンセラーなど治療分野の専門家が出席しているが、ナルコティクス アノニマスが招かれたのはこれで3度目である。ジョージアリージョンは、NAWS（NAワールドサービス）とサバナローカントリー・エリアのサービス委員会と協力して展示ブースを設けた。このブースには、NAWSから『イントロダクトリー・ガイド・トゥ・ナルコティクスアノニマス』、『ナルコティクス アノニマスの12ステップ・ワーキングガイド』、『イン・タイムズ・オブ・イルネス』などのNA文献が提供された。そして、ジョージアリージョン広報委員会は英語版とスペイン語版によるIP（インフォメーションパンフレット）を多

数用意し、サバナローカントリーエリアサービス委員会では地元のミーティングスケジュール表を用意した。NAの展示ブースを設けることの最も重要な側面は、セラピストやカウンセラーと直接交流できるイベントを通してNAによる対応が可能になるということだ。つまり、NAメンバーたちが出席者の質問に答えたり、NAのことやNAのプログラムについて出席者たちが誤って伝えられているかもしれない情報を正したりできるのである。このため、サバナローカントリーエリアサービス委員会では、NAの展示ブースにはつねに何人かのメンバーを配置してNAに関する正確な情報を提供できるようにしている。そしてブースを設ける以外にも、同じエリアにあるいくつかのグループが学会の開かれている建物で毎晩NAのオープンミーティングを行うことによって、学会に出席している専門家たちも自由に参加できるようになっている。この治療分野の専門家と直接交流できる学会では、12ステップグループのなかでNAだけが展示ブースを設けているので、専門家たちはNAのことやNAプログラムについて知りたいことがその場でわかるというわけだ。ジョージアリージョンの広報委員会とサバナローカントリーエリアは、2014年に開かれる第8回ジョージア州アディクション学会でも、NAの展示ブースに待機するのを楽しみにしている。

メアリー・エレン・W ジョージアリージョン広報委員会委員長 サンドラ・W サバナローカントリー広報委員会委員長

ニュースレターの編集者および委員会のみなさん、協力をお願いします！

みなさんのエリアやリージョンでは、ニュースレターを発行していますか？

ぜひ、みなさんの活動をお知らせください。その際には、みなさんのEメールアドレスがメンバーリストもお忘れなく！

naway@na.org

The NA Way Magazine; PO Box 9999;
Van Nuys, CA 91409

ニュースレターに関する経験の共有や問い合わせには、以下の掲示板をご利用ください。

<http://disc.na.org/servdisc>

第1回 東アフリカ NAコンベンション

パート2：フットワーク (機動力)

編集記：これは、NA Wayマガジン2013年1月号に掲載された第1回NA東アフリカコンベンションの誕生物語の続編である。その誕生に関わるようになったいきさつと、そのことが自分の回復にどのような影響をおよぼしたか、そして東アフリカNAコンベンションがアフリカ大陸のNAの成長にどのように貢献しているかなどについて、イムランというメンバーが語ってくれている。

何はなくとも、まずは地元のメンバーによる委員会を結成しなければならない。そのためにはボランティアを募る必要があるということ、私は次の会合で告げた。ダルエスサラームのNAは誕生したばかりでとても小さく、発展途上にあるため、まだサービス機構といえるものができていなかった。だが、サービスに関わったことがほとんどなくても、無償で与えられたものをお返ししたいという仲間がいないわけがない。そうやって2名が名乗りを上げてくれたので、私を含めて回復の道を歩むアディクト3名のボランティアが誕生した。私たちはコンベンションのガイドラインを送ってもらい、じっくりやっていると励まし合った。これで委員長と副委員長と会計が決まり、さらにアメリカの仲間合衆国代表として参加してほしいと頼んだので、この仲間を入れてコンベンション実行委員は4名となった。あとは行動あるのみだ。この合衆国代表はソーシャルメディアでグループをつくり、合衆国や東アフリカで私たちが知っているメンバーに誘いをかけていった。すると、誘いを受けたメンバーが今度は、ほかのメンバーを誘っていったのだ。そうして世界中から集まったメンバーは、もはや1300人を優に超えている。私たちは神の意志を知ろうとし、そのために祈り、それだけを行っていく力を求めた。そして、まずは会場を確保するために必要な資金を調達すべく、Tシャツをつくることになった。イランのメンバーが、アフリカ人をモチーフにした素晴らしいロゴをデザインしてくれた。このロゴは満場一致で採択され、これを中心にして構想が練られていった。コンベンションのテーマは、東アフリカのメンバーたちによる投票で「やっと自由になった」とすることに決まった。インターネットがうまくつながらなかったため、ロゴをデザインしてくれたイランのメンバーとのやりとりが途絶えてしまったが、カリフォルニアのメン

バーが名乗り出てTシャツのデザインのために尽くしてくれた（しかも、コンベンションを通してずっと協力してくれたのだ）。メンバーがどんどん増えていくので、慌ててTシャツをプリントしてもらったところ、24時間もしないうちに1,200,00ドルの売り上げになった。こうして、回復の道を歩むアディクトが大きな善のために尽くすことの影響力をまざまざと見せつけられたのだ。みんな涙ながらにインターネットを通じてハグを交わし、喜び勇んだ。そして、仲間の愛は遠くロシアからも注がれていた。そうやってみるうちに、ひとりからもうひとりへと、生きるエネルギーがそそがれていくのだった。NAで表わされる愛の精神は、私たちにそなわる最も力強いものである。私たちは、このほとばしる愛の目撃者となったのだ。私たちは何としてもやり遂げようという気持ちと根気強さをもってウェブサイトをつくった。そしてついに資金もできて、地元の会場を探すところまで来た。実行委員のメンバーたちは地元のホテルをあちこち訪れて業者や職員に会い、そのひとりひとりにNAの情報を伝え、アディクトが新しい生き方を見出すのにこのプログラムがどのように役立つかということ話をした。私たちはさまざまな可能性を考慮して、全費用を賄うのに十分な料金で手を打った。この次もあることだし、それが希望となって、私たちの旅を前進させる原動力になるのだ。こうして会場を確保できたので、タンザニアでの第1回NA東アフリカコンベンションの開催を発表してもいいだろうかと、NAワールドサービスに尋ねた。これはもう夢ではない。現実になったのだ。NAのウェブサイトにあるイベント欄 www.na.org/events とNA Wayマガジンのカレンダーに「タンザニア」の文字が載っているのを目にして、私たちはとても興奮した。会場を確保した以上は、メンバーを招いてホテルの部屋を満杯にしなくてはならない。それで、私たちはこの仕事に取りかかった。焦らず、じっくり、ちょっとずつ、着実にやっていった。出だしでもたついたものの、世界中のメンバーが手をさしのべてTシャツを買おうとしてくれた（そして、これが大成功だったので、私たちはさらにフード付きのパーカーも売り出した）のだ。それによって、みんなが関心をもつようになり、コンベンションに参加するのはどうしたらいいかと詳しい情報を求めるようになったのだ。私たちの初めての資金集めは、大成功なんてものではなかった。当事者の多くにとって人生を変えるような出来事になったし、会場費の残りといくつかの予期しない旅費とTシャツやフード付きパーカーの注文代も賄うことができたのだ。そして、ウェブサイトをつくってコンベンションに関する情報を共有したことで、私たちは世界中のNAとの一体感を覚えた。こうして旅は続いていく・・・

イムラン・K (タンザニア・ダルエスサラーム)

みなさんのNAでFDに関する経験やアイデア、成功例などがあれば、NA Wayマガジンの誌面で世界中のNAにわちあえるように、naway@na.org へお知らせいただきたい。



Electronic subscribers
can click here for additional content.

Postcards from the Fellowship

MIENTRAS
SIGA ESTE
CAMINO NO TENGO
NADA QUE TEMER

Colombia

I ♥ NA

As long as I follow that way, I have nothing to fear.

LOOK
NA

ZAHIR
S. PHILLY

MAY YOU ALL BE SURROUNDED BY
FRIENDS, FAMILY, FELLOWSHIP &
LOVE, RESPECT, CARE,
FOR THE NEWBOLD, +
YOUNG of NA.....

Kitty - AUSTRALIA
Living Clean to Freedom

WENA 35
60th

My
Bros + Sis
in Recovery
SPU
=

Love You!

Heater W.

Good Morning Group Salisbury

Merci!
Merci!
Merci!

Wc.

Electronic subscribers
can click here for
additional content.

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at www.na.org/events. (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or The NA Way; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Argentina

Mar Del Plata 11-13 Apr; Area Mar Del Plata Convention 9; Gran Hotel Santa Teresita, Mar Del Plata; www.facebook.com/convencionna.mdq

Australia

South Australia 24-26 Jan; South Australian Area Convention; SA Sea Rescue Squadron, Adelaide; www.na.org/au

Bangladesh

Potuakhali 31Jan-2 Feb; Dhaka Area Convention 2; Porjoton Motel-Kuakata, Potuakhali; www.nadhaka.org

Brazil

São Paulo 27-30 Mar; HOW Brazil Regional Convention 2; Hotel Grimberg S Village, Socorro São Paulo; Event Info: 5501991006148

Canada

British Columbia 4-6 Apr; British Columbia Regional Convention; Executive Plaza Hotel, Coquitlam; www.canaacna.org

Ontario 14-16 Feb; Toronto Area Convention 8; Downtown Toronto Marriot Eaton Centre, Toronto; www.torontonaconvention.org

Quebec 14-16 Mar; Quebec Regional Youth Convention 18; Sheraton Montreal Airport, Montreal; www.naquebec.org

India

Delhi 16-18 Jan; Delhi Area Convention 11; The Wild Crest (Jim Corbett), New Delhi; speaker tape submission deadline: 10 Jan; www.nadelhi.org

Tamil Nadu 20-22 Feb; Chennai Area Convention 5; Sterling Holidays Resort, Kodaikanal; speaker tape submission deadline: 31 Jan; <http://www.chacna.org/>

Indonesia

Bali 11-12 Jan; Balinese Russian-Language Convention; Raya Uluwatu, Bali; www.bali-na.ru

Nepal

Kathmandu 7-9 Feb; Nepal Regional Convention 4; Hotel Madhuvan Nagarkot, Kathmandu; www.nakathmandu.org/events.php

New Zealand

Bluff 7-9 Mar; Invercargill Group Lighten the Load; Omaui, Bluff; www.nzna.org/

Rotorua 14-16 Mar; Rotorua Tuesday Night in All Our Affairs Group; Waitapu Forest Camp, Rotorua; www.nzna.org

Norway

Trysil 12-16 Mar; Trysil Group Ski & Recovery 8; Trysil; www.nanorge.org

Philippines

Cebu City 21-23 Feb; Philippines Regional Convention 19; Saint Mark's Hotel, Cebu City; www.napilipinas.org

Thailand

Chiang Mai 14-16 Feb; Thailand Regional Convention 7; Centara Duangtawan Hotel, Chiang Mai; www.na-thailand.org

United States

Alabama 7-9 Feb; North Alabama Area Convention 18; Holiday Inn Downtown, Huntsville; www.alnwfl.org

2) 21-23 Mar; Greater Mobile Area Convention 17; Mobile Marriott, Mobile; speaker tape submission deadline: 15 Jan; www.alnwfl.org

Arizona 7-9 Feb; Arizona Men's Spiritual Retreat 2; Franciscan Renewal Center, Scottsdale; www.themensretreat.org

2) 7-9 Mar; Mexico Arizona California Convention 5; Shilo Inn, Yuma; www.maccna.org

California 17-19 Jan; San Fernando Valley Area Convention 19; Burbank Airport Marriott, Burbank; www.nasfv.com/index.html

2) 21-23 Feb; Central California Regional Convention 22; Marriott, Bakersfield; www.cceinc.org

3) 14-16 Mar; Utah, California, Arizona, Nevada (UCAN) Women's Spiritual Retreat; Pierpont Inn, Ventura; Event Info: mommymyrna@gmail.com

Delaware 28-30 Mar; Small Wonder Area Convention 11; Doubletree by Hilton, Wilmington; www.swanadel.org

Florida 16-19 Jan; Palm Coast Area Spiritual Retreat 25; Gold Coast Camp, Lake Worth; www.palmcoastna.org

2) 11-13 Apr; Space Coast Area Convention; International Palms Resort, Cocoa Beach; Event Info: sconv@gmail.com

Georgia 27-30 Mar; Georgia Regional Convention 33; Atlanta Hilton Northeast, Norcross; www.grcna.org

Indiana 7-9 Mar; Indiana State Convention 21; Radisson Star Plaza, Merrillville; www.naindiana.org/events.php

Kansas 4-6 Apr; Mid-America Regional Convention 31; Ramada Inn, Salina; www.marscna.net

Maryland 17-19 Jan; Virginia Regional Convention 32; Clarion Hotel/Hager Hall Conference & Event Center, Hagerstown; www.avcna.org/html/avcna_commitee.html

2) 11-13 Apr; Chesapeake & Potomac Regional Convention 28; Roland E Powell Convention Center, Ocean City; www.cprcna.org/28

Massachusetts 17-19 Jan; Boston Area Convention 16; Boston Park Plaza Hotel & Towers, Boston; www.nerna.org

2) 14-16 Mar; North East Massachusetts Area Convention; Burlington Marriott, Burlington; www.nerna.org/events

Minnesota 11-14 Apr; Minnesota Regional Convention 21; Doubletree, Minneapolis; www.naminnesota.org/mnnac

Missouri 7-9 Mar; Circle of Sisters 17; Saint Louis Union Station Hotel, Saint Louis; www.circleofsisters.org

Nebraska 21-23 Feb; Eastern Nebraska Area Close Encounters of the Clean Kind; Omaha Marriott, Omaha; www.eastern-nebraska-na.org

New York 17-19 Jan; Nassau Area Convention 11; Long Island Huntington Hilton, Melville; www.nacna.info

2) 13-16 Feb; Metro Area de Habla Hispana Convention 9; Crowne Plaza Hotel, White Plains; Event Info: 646.330.7382

3) 21-23 Feb; Rochester Area Convention 20; Radisson Hotel, Rochester; www.rochester-na.org

North Carolina 28 Feb-2 Mar; Freedom by the Sea Convention 13; Sea Trail Golf Resort/Convention Center, Sunset Beach; www.coastalcarolinaarea.org

Ohio 14-16 Feb; Toledo Area Convention 17; Ramada Hotel & Conference Center, Toledo; www.blascna.org

2) 28 Feb-2 Mar; Cleveland Legs Area Convention 11; Holiday Inn, Independence; www.nabuckeye.org

Pennsylvania 7-9 Feb; Mid-Atlantic Regional Conference 30; Lancaster Host Hotel, Lancaster; www.marscna.org

Rhode Island 14-16 Feb; Greater Providence Area Convention 7; Crowne Plaza, Warwick; www.gpana.org/index.htm

South Carolina 24-26 Jan; Upper South Carolina Area Convention 34; Greenville Marriott, Greenville; www.crna.org/events

2) 14-16 Feb; Greater Columbia Area RAW Convention 13; Hilton Head Marriott Resort & Spa, Hilton Head Island; www.crna.org/events

Texas 14-16 Feb; Texarkana Area Convention 29; Holiday Inn, Tyler; www.texarkanaareaofnarcoticsanonymous.org

Utah 28-30 Mar; North by Northwest Area Las Vegas Dopes on Slopes 11; www.nxnwana.org

Virginia 7-9 Mar; Tidewater Area Convention; Norfolk Waterside Marriott Hotel, Norfolk; www.tidewaterareana.org

Washington 6-9 Mar; Clean and Free by the Sea 32; Ocean Shores Convention Center, Ocean Shores; www.wnirna.org

Wisconsin 21-23 Feb; Greater Milwaukee Unity Convention 17; Sheraton Milwaukee Brookfield, Brookfield; www.namilwaukee.org

NAWS Product Update

2014 NAWS Calendar

The journey continues with this 13-month calendar (Dec 2013-Dec 2014) featuring NA lit quotes and unique artwork

Item No. 9500 Price US \$8.80

Special Bundles

30th Anniversary Basic Text & Timeline Mug

A special price for this Limited Edition Basic Text plus a Timeline Mug

BUNDLE: Item No. 1103B Price US \$45

Basic Text: Item No. 1103 Price US \$36.75 Mug: Item No. 9418 Price US \$16.50



Living Clean Numbered Edition & Living Clean Mug

BUNDLE: Item No. 1155B Price: US \$39

Living Clean: Item No. 1155 Price US \$33 Mug: Item No. 9417 Price US \$16.50



Just for Today Collector's Edition & 2014 Calendar

BUNDLE: Item No. 1115B Price: US \$35

JFT: Item No. 1115 Price US \$33 Calendar: Item No. 9500 Price US \$8.80





Chinese 致新成员

Item No. CH-3116 Price US \$0.24

Chinese (Traditional)

誰、什麼、如何、為何

Item No. CT-3101 Price US \$0.24

Korean

후원자 결연 개정판

Item No. KO-3111 Price US \$0.24

Portuguese (Brazil)

White Booklet

Livro branco

Item No. PB-1500 Price US \$0.75

O grupo

Item No. PB-3102 Price US \$0.31

Coming Soon

Polish

It Works: How & Why

To działa jak i dlaczego

Item No. PL-1140 Price US \$9.00

WCNA 35 Merchandise

To be available online soon!

<http://www.na.org/wcna>

Choose from a variety of clothing, caps, and mugs.

Treat yourself or buy a gift for a friend or sponsee/sponsor.

All sales are final; quantities and sizes are limited to stock on hand.

Statement of Ownership, Management, and Circulation

The NA Way Magazine (ISSN 1046-5421) is published quarterly. There is no subscription charge for this publication. The office of publication is at 19737 Nordhoff Place; Chatsworth, CA 91311. Mailing address is; 19737 Nordhoff Place; Chatsworth; CA 91311. The editor is De Jenkins. The NA Way Magazine is owned by NAWS, Inc., a nonprofit corporation, and there are no other bondholders, mortgagees, or security holders. The status of this corporation has not changed during the twelve months preceding this filing.

Extent and nature of circulation	Average no. of copies in preceding 12 months	Actual no. copies as of Oct-13
a. Total printed copies	13,500	14,250
b. (1) Requested subscription—outside county	7,570	7,897
b. (4) Requested subscription—by other classes of mail	5,439	5,854
c. Total requested subscription	13,009	13,751
d. (4) Free or nominal rate distribution	300	275
e. Total free or nominal rate distribution	300	275
f. Total distribution	13,309	14,026
g. Copies not distributed (office uses)	191	224
h. Total	13,500	14,250
i. Percent requested circulation	97.7%	98%

Certified, correct, complete

